

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2016』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5→学年暦 ・ p. 20～23→通信教育部カレンダー
 - ・ p. 45～48→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 49～51→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

11 / 5 ～ 12 / 4 の追加・変更点

- 「統計情報を見る眼」スクーリング開講時間（11/19分）
（変更前）12：40～17：30 → （変更後）10：30～17：40

お詫び

- 「特講（子供の貧困）」（10/22・23仙台）スクーリング中止について
標記スクーリングが急遽中止となりました。お申込みいただいております皆さまには、大変ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。
※詳細は本冊子 p. 42～43をご参照ください。

心理学を学んでよかったですか？

教員 MESSAGE

講師 山口奈緒美

心理学を教えている、研究しているという、「人の心が分かるのですか？」「今の私の考えを当ててみてください」とよく言われます。それはできないと答えると、とても残念そうな顔をされ、こちらもなぜか申し訳ない気持ちになります。このようなやりとりから、多くの人は人の気持ちが分かるようになることが、心理学を学ぶ利点だと考えているように思います（主観ですが）。しかし、私が心理学を学んでよかったと思うのは、ある特定の状況においてある特定の要因の影響を受けている人々の気持ちや行動が推測しやすくなったことももちろんありますが、ある主張の根拠を吟味する姿勢と、原因を見極めるときの観察ポイントを意識するようになったことだと思っています（これも私の主観的自己評価ですが）。この2点を意識できるようになったのは、人々の心理に関する個々の知識の蓄えというよりも、心理学の研究法を学んだからだと思っています。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」は心理学の研究法についての実習ですが、この夏にスクーリングが行われました。心理学実験という研究手法を学ぶことが、なぜ上記2点につながるのか、述べてみたいと思います。

心理学実験は、人々がなぜそのような行動を示すのか、その原因となる要因を明らかにするための代表的な手法です。おおまかに言うと、①自分が原因であると考えている要因（独立変数）以外は実験状況から極力排除し（独立変数以外の排除を状況統制といいます）、②独立変数を状況に加えたり除いたりし（この加除を操作といいます）、③独立変数の操作によって人々の行動や態度（従属変数）が変化したかどうかを測定するという3つの手順で構成され、全て厳密に行わなければなりません。私は、誰かから被害を受けたときの、相手に対する寛容について研究しています。加害

者からの謝罪は寛容に大きな影響を与えますが、その謝罪が偽りであれば許しがたくなるように、謝罪の内容によって寛容に与える影響は異なります。例えば、謝罪に言い訳が含まれている時といない時では、寛容の程度が異なるのだろうか。これを知るためには、謝罪に言い訳を含む場合とそうでない場合とを用意して（独立変数の操作）、寛容の程度を測ればいいのです（従属変数の測定）。が、言うは易く行うは難し。これを実際の実験に落とし込むのは大変です。①に関して言えば、言い訳と寛容の間に影響を与える他の要因はたくさんあるでしょう。被害者と加害者の親密さや被害の深刻さ等です。こうした独立変数以外の要因をどの程度で扱うか（統制するか）を検討する必要があります。②に関して言えば、言い訳を自分ではなく状況のせいにする自己防衛タイプにするのか、自分の能力の低さのせいにする下手に出るタイプなのか、どのような言い訳にするかによっても寛容の程度は異なってきそうです。言い訳を明確にタイプわけして、それぞれのタイプの典型とも言えそうな「言い訳」を作らなければなりません。③に関して言えば、「寛容」を具体的にどう測ればいいのでしょうか。謝罪を受け入れることが寛容なのか、その後も以前と変わらず接することが寛容なのか、寛容の定義を明確にした上でそれを過不足なく測定する尺度を準備しなければなりません。

心理学実験には以上のような課題があることを知っていれば、もし、講義などで具体的な心理学の実験が示された時に、「この操作方法で本当に著者が『原因』と考えているものが作り出せているのか」「本当に測りたいものが測れているのか」「状況が統制しきれていないのでは？」という観点から自分なりに再考することができます。講義だけに限らず、職場で誰かがあるデータにもとづいて何かを主張している時、その根拠となるデータは引用に耐えうるものなのかどうか、以上の3つの観点から見直してみてください。そうすることによって、講義で講師が話している（あるいは職場で誰かが主張している）ことが本当なのかどうか、批判的かつ建

設的に吟味することができます。心理学の研究法を学ぶと、講義内容（や他者の主張）について、その根拠を自分なりに吟味しながら考える姿勢が身につくと思います。

2つ目は問題解決思考です。心理学実験は、他の要因の影響をできるだけ排除して、原因が結果に与える影響を確かめる方法です。日常生活や人間関係、業務遂行上で何か問題が生じたら、なぜそうなってしまったのか原因を自分なりに考えると思います。そのときにも実験の手順①を思い出して欲しいのです。自分が考えている「原因」が本当に「結果」を導いているのか、その他の要因は関連していないのか。実は、自分が考えていた原因ではなく、周辺の要因だとおもっていたものが真の原因である可能性も見えてきます。原因が分かれば解決策を考えやすくなるので、ただ漠然と問題について考えるよりも、問題と向き合いやすくなるのではないかと思います。

このように、人々の心理的狀態に関する知識だけではなく、心理学の研究法を学ぶことによって、日常生活においても根拠を吟味する力や問題や課題の解決を探る糸口を見つけやすくなります。私はこの点において、本当に心理学を学んでよかったと思っています。みなさんは、どう思われますか？在学中にみなさんがそれぞれ回答を見出せることを、願っています。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●社会福祉原論（職業指導を含む）田中 治和 仙台

- ・科目としては難しいと思っていましたが、先生がご自身の論文や参考文献を提示していただき、国家試験のための社会福祉という学問の深い部分、人とはどのように関わりあうのかについてのヒントを沢山学ぶことができました。これから自分自身が何をできるかを考えていきたい。
- ・理論と実践について、具体的事例を話しながら説明してもらえたので、イメージしやすかった。また、社会福祉に関わる者として大切な知識と自覚を学ぶことができる講義でした。

●心理学実験Ⅰ 佐藤 俊人・柴田 理瑛 東京

- ・実験というと、とても大がかりなイメージでしたが、他の学生とコミュニケーションを取りながら進めることができ、とても楽しく受講できた。学年が上の方からの助言を聞くことで今後の学習の取り組みがイメージできた。
- ・実験レポートの書き方など初めて学ぶことが多かったです。実験のまとめ方や書き方について分かりやすく教えていただきました。これからのレポート作成に活かしていけるように自己学習したいと思います。

●障害者福祉論 横山 英史 仙台

- ・障害に対する捉え方考え方が、歴史や制度を通して学んでいくうちに少しずつ変化していき、気づきながら学習することでより、興味と関心が高まりました。先生自身当事者の立場で講義して下さるので、具体的に障害者福祉論が理解できる内容でした。

●社会調査の基礎 三浦 剛 仙台

- ・社会調査をする際は、調査票の作成以前のプロセスが大事であり、結果についても単純に集計するだけでなく、結果の関係性も分析し「検定」という手法も重要であることを学んだ。

●福祉社会学 赤塚 俊治 盛岡

- ・今まで「社会福祉とは何か」について考えてきました。今もまだ不明瞭ではありますが、福祉社会学を受講し、自分なりの考え（理論）について実践を通して積み重ねながら考え、構築していきたいと思いました。
- ・先生の講義を受講し、私ができることとやらなければならないことを教えられた気がします。知識も大切であるが専門職としての意識が重要であることを理解しました。また、参考になる資料がとても良かったです。